

## 身体計測

### BMI値

BMI値は身長に見合った体重かどうかを判定する数値です。

## 血圧

### 血圧値

血圧値によって心臓のポンプが正常に働いているか、また高血圧かを判断します。

## 眼

### 眼圧

眼球の中は房水という液体で圧力が保たれています。

眼圧が低いと網膜剥離、外傷などが、高いと高眼圧症、緑内障が疑われます。

## 心電図

心臓の筋肉に流れる電流を体表面から記録する検査です。電流の流れ具合に異常がないかがわかります。

また1分間に電気が発生する回数である心拍数も測定されます。

## 聴力

低音と高音の両者が聞こえるかを調べます。

## 呼吸機能検査

大きく息を吸ったり吐いたりして、呼吸機能を評価する検査です。

### 肺活量

性別、年齢、身長から算出された予測肺活量に対して、あなたの肺活量が何%であるかを調べます。

### 1秒率

最大に息を吸い込んでから一気に吐き出すとき、最初の1秒間に何%の息を吐きだせるかを調べます。

## 胸部X線

肺炎、肺結核、肺がん、肺気腫、胸水、気胸など、呼吸器の疾患の有無、その程度がわかります。

## 上部消化管X線

胃、十二指腸のポリープ、潰瘍(かいよう)やがんなどが発見できます。  
潰瘍やがんによって粘膜面に凹凸が生じて、バリウムの「たまり」や「抜け」として現れます。

## 上部消化管内視鏡

食道がん、逆流性食道炎、胃炎、胃潰瘍、胃がん、胃ポリープ、十二指腸潰瘍などの病気の発見に有用です。

## 腹部超音波

肝臓、すい臓、腎臓に腫瘍があるか、胆のうには胆石などがあるかを調べます。  
超音波検査では、超音波が入りにくい部分があるため、全域を観察できないことがあります。  
特にすい臓は奥深い場所にあるため、見にくくなります。

## 血液検査

### 肝臓系検査

#### 総タンパク

血液中の総たんぱくの量を表します。

数値が低い場合は**栄養障害、ネフローゼ症候群、がん**など、高い場合は**多発性骨髄腫、慢性炎症、脱水**などが疑われます。

#### アルブミン

血液蛋白のうちで最も多く含まれるのがアルブミンです。

アルブミンは肝臓で合成されます。肝臓障害、栄養不足、ネフローゼ症候群などで減少します。

#### AST (GOT) とALT (GPT)

AST (GOTともいう) は、心臓、筋肉、肝臓に多く存在する酵素です。ALT (GPTともいう) は肝臓に多く存在する酵素です。

数値が高い場合は急性肝炎、慢性肝炎、脂肪肝、肝臓がん、アルコール性肝炎などが疑われます。

#### γ-GTP

γ-GTPは、肝臓や胆道に異常があると血液中の数値が上昇します。

数値が高い場合は、アルコール性肝障害、慢性肝炎、胆汁うっ滞、薬剤性肝障害が疑われます。

## 腎臓系検査

---

### クレアチニン(Cr)

アミノ酸の一種であるクレアチンが代謝されたあとの老廃物です。筋肉量が多いほどその量も多くなるため、基準範囲に男女差があります。

腎臓でろ過されて尿中に排泄されます。

### eGFR（イージーエフアール）

クレアチニンより精度の高い腎臓機能の指標です。クレアチニン値を性別、年齢で補正して算出します。

数値が低いと腎臓の機能が低下していることを意味します。

## 尿酸(UA)

---

尿酸は、たんぱく質の一種であるプリン体という物質が代謝された後の残りかすのようなものです。

この検査では尿酸の産生・排泄のバランスがとれているかどうかを調べます。

高い数値の場合は、高尿酸血症といえます。高い状態が続くと、結晶として関節に蓄積していき、突然関節痛を起こします。

## 脂質系検査

---

### HDLコレステロール

善玉コレステロールと呼ばれるものです。血液中の悪玉コレステロールを回収します。少ないと、動脈硬化の危険性が高くなります。

### LDLコレステロール

悪玉コレステロールとよばれるものです。

LDLコレステロールが多すぎると血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳梗塞を起こす危険性を高めます。

### 中性脂肪（TG）（トリグリセリド）

体内の中でもっとも多い脂肪で、糖質がエネルギーとして脂肪に変化したものです。数値が高いと動脈硬化を進行させます。

### Non-HDLコレステロール

Non-HDLコレステロールは、すべての動脈硬化を引き起こすコレステロールを表します。

LDLコレステロールだけでなく、中性脂肪が豊富なリポ蛋白、脂質代謝異常により出現するレムナント（残り物）などを含み、

動脈硬化のリスクを総合的に管理できる指標です。数値が高いと、動脈硬化、脂質代謝異常、甲状腺機能低下症、家族性高

## 糖代謝系検査

---

### 血糖値(FPG)

糖とは血液中のブドウ糖のことで、エネルギー源として全身に利用されます。  
測定された数値により、ブドウ糖がエネルギー源として適切に利用されているかがわかります。  
数値が高い場合は、糖尿病、膵臓癌、ホルモン異常が疑われます。

### HbA1c(NGSP)

HbA1c（ヘモグロビン・エーワン・シー）は、過去1~2ヶ月の血糖の平均的な状態を反映するため、糖尿病のコントロールの状態がわかります。

## 血球系検査

---

### 赤血球（RBC）

赤血球は肺で取り入れた酸素を全身に運び、不要となった二酸化炭素を回収して肺へ送る役目を担っています。  
赤血球の数が多すぎれば多血症、少なすぎれば貧血が疑われます。

### 血色素（Hb）（ヘモグロビン）

血色素とは赤血球に含まれるヘムたんぱく質で、酸素の運搬役を果たします。  
減少している場合、鉄欠乏性貧血などが考えられます。

### ヘマトクリット（Ht）

血液全体に占める赤血球の割合をヘマトクリットといいます。  
数値が低ければ鉄欠乏性貧血などが疑われ、高ければ多血症、脱水などが考えられます。

### MCV・MCH・MCHC

MCVは赤血球の体積を表します。  
MCHは赤血球に含まれる血色素量を表します。  
MCHC赤血球体積に対する血色素量の割合を示します。  
MCVの数値が高いと、ビタミンB12欠乏性貧血、葉酸欠乏性貧血、過剰飲酒が疑われます。低いと、鉄欠乏性貧血、慢性炎

### 白血球（WBC）

白血球は細菌などから体を守る働きをしています。  
数値が高い場合は細菌感染症にかかっているか、炎症、腫瘍の存在が疑われますが、どこの部位で発生しているかはわかりません。

### 血小板数（PLT）

血小板は、出血したとき、その部分に粘着して出血を止める役割を果たしています。  
数値が高い場合は血小板血症、鉄欠乏性貧血などが疑われ、低い場合は再生不良性貧血などの骨髄での生産の低下、特発性血小板減少性紫斑病などの体の組織での亢進、肝硬変などの脾臓でのプーリングが考えられます。

## 感染症系検査

---

### CRP

細菌・ウイルスに感染する、がんなどにより組織の傷害がおきる、免疫反応障害などで炎症が発生したときなどに血液中に増加する急性反応物質の1つがCRPです。**細菌・ウイルス感染、炎症、がん**はないかを調べます。

### 梅毒反応（希望者のみ）

梅毒に感染しているかを調べます。

ただし、結核、膠原病など梅毒以外でも陽性になることがあり、これを生物学的偽陽性といいます。陽性の場合には区別する

### HBs抗原（希望者のみ）

B型肝炎ウイルスに感染していないかを調べます。

陽性の場合、現在B型肝炎ウイルスが体内にいることを意味します。

### HCV抗体（希望者のみ）

C型肝炎ウイルスに感染していないかを調べます。陽性の場合、現在C型肝炎ウイルスが体内にいることを意味します。

## 尿検査

### 蛋白

---

腎臓の傷害により尿蛋白がふえます。**腎炎、糖尿病腎症**などが考えられます。

## 便

### 便潜血

---

便に血が混ざっています。

陽性（+）の場合は、大腸ポリープ、大腸がん、痔などが考えられます。

## 内科診察

聴診器により心臓の雑音を聴取した場合は心臓弁膜症などが発見できます。

下肢にうねうねとした、浮き出た血管が見えれば下肢静脈瘤を発見できます。

## 婦人科検診

細胞診検査により子宮頸がんの早期発見につながります。

トリコモナス膣炎、カンジタ膣炎などの感染がわかります。